

第292回鳥取県内水面漁場管理委員会議事録

- 1 日時 令和6年3月18日(火)午後2時から午後3時10分まで
- 2 場所 倉吉シティホテル 3F カサブランカ
(鳥取県倉吉市山根543-7)
- 3 出席者 委員 : 安藤会長、寺崎委員、笠原委員、絹見委員、三谷委員、大谷委員
山崎委員、下田委員
鳥取県: 漁業調整課 本田係長
栽培漁業センター 田中主任研究員
事務局: 氏事務局長(県漁業調整課長兼任)
清家次長(県漁業調整課課長補佐兼任)
橋本書記(県漁業調整課主事兼任)

4 傍聴者 0名

5 議事

- (1) コイヘルペスウイルス病のまん延防止に係る委員会指示について(協議事項)
- (2) 第五種共同漁業権魚種の増殖目標量について(協議事項)
- (3) 鳥取県水産振興局における令和6年度の予算について(報告事項)
- (4) その他

6 議事経過及び結果について

事務局長による開会の宣言、会長による挨拶の後、会長が議事録署名人として、寺崎委員及び下田委員を指名した。

議事1 コイヘルペスウイルス病のまん延防止に係る委員会指示について(協議事項)

〔原案に同意する旨決議された。〕

橋本書記が資料1に沿って説明した。

〔安藤会長〕

ありがとうございました。毎年4月から1年間を通してのこの指示内容についての告示なんですけれども、一応、後ろのほうに、その文案が掲げられて、一部、字句の訂正があります。特に、放流に関しての内容が、県民一般が理解しやすいように、特段、持ち出しの部分については、掲げる必要はないんじゃないかということで、持ち出しの件と、部分については、ちょっと削除したということです。それで、放流について、採捕した際の速やかな放流も含めて考えていかなくちやということで、そこは除外の対象にしたということですね。これについて、内容については、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

表面の5番の発生状況の確認ですけれども、これは、発生が、例えば、5年度ゼロって書いてありますけど、発生がゼロという、県内全域でゼロという理解ではないですね。

〔橋本書記〕

そうですね。

〔安藤会長〕

検査して陽性だった件数がゼロだということなので、既に発生している水域では検査しませんので、たとえ死んでいても。だから、それが未感染とは言いづらい、感染がある場合も含まれる。ただ、県としては、未発生のところを広げないための手だてを重視するってことで、検査対象は、未発生区域の死んだコイに限るという立場で、これまでもやってこられているってことを御理解いただきたいと思います。この点についても、いかがでしょうか、何か御意見等ありますでしょうか。

〔山崎委員〕

その趣旨は理解できるんですけど、この表を見たときに、それがちょっと、すんなり理解し難いのかなとか、難しいかなとかというのがあると思うので、どうでしょうね、何かもう少し表記の仕方。去年は、同じ数字で発生件数ってなっていたところを、確定件数っていうふうに変えていただいたっていうのは、そういうところなんじゃないかな。

〔本田係長〕

そうですね、今、委員のおっしゃられたように、これ、昨年度の資料は、発生状況っていうふうにさせていただいてたんですけど、実は、発生状況っていうのを正確に、県のほうで、今確認してる状況じゃないっていうところで、委員の皆様にも、今の現状をきちんと理解して伝えられるようにということで、あくまで、今回のこのゼロ件っていうのは、確定件数ですっていうところを補足させていただいております。

〔下田委員〕

このグラフの平成16年から令和5年になっていて、この平成21年から平成29年のところは、ただ、省略化されているのか、1年ずつで件数は分かっているのか、どうなんですかね。

〔橋本書記〕

資料的には、ちょっと省略させていただいて。

〔下田委員〕

省略ってことですね。わかりました。

〔安藤会長〕

その10年間の件数が、年にゼロから6件ということなので、10個エクセル幅を作ると、2段組みになるので省略したっていうふうに。20年までは、ちょっと件数が多いので、年次的に、その変化を見ていただくために、各年度で作ってるんですけども、あとは、なだらかな、もう数の少ない年度が続いてるので、まとめたというところでしょうね。

〔下田委員〕

はい、ありがとうございます。

〔安藤会長〕

先ほどの山崎委員さんのほうからの意見は、米印の理解が、ちょっとこの表の中で分かるようになればなあということですけども、この表自体は、この委員会でしか出ないですよ。一般には出ないわけですね。

〔橋本書記〕

そうですね。

〔安藤会長〕

ホームページにも出ないんですか。

〔橋本書記〕

今、出してないです。

〔安藤会長〕

出してないですね。

〔本田係長〕

いえ、ホームページには、議事録と一緒に委員会資料としては出ますので、おっしゃられるように、特に、来年度の資料に向けては、もう少し内容が分かるように。

過去は、発生の初期の辺りっていうのは、コイが死ぬごとにやってたんですけども、件数が多くなってきて、ちょっと検査の方法等も途中で見直したとか、状況が変わってますので、そういった状況等が分かって、正しく今の状況が理解できるように、資料のほう、来年度は作成させていただけたらと思います。

〔安藤会長〕

というところで、来年、ちょっと様式を変えるかも分かりません。

〔山崎委員〕

報告件数とか、それから、検体数のうち、陽性の数みたいな感じの表記とか。

〔本田係長〕

もう少し段を増やしてですね。

〔山崎委員〕

そう。そうされてもいいかなというふうに思いました。

〔本田係長〕

分かりました。

〔絹見委員〕

16年、17年は、71件、46件と、たくさんありましたが、それから、ずっとなくなってきたのが、これは、この今、やっとなされる措置でなくなった、減ってきたということですか。それとも、16年、17年に、何らかがあつて、ぐっと増えて、それが今はなくなったということでしょうかね。どうなんでしょうか。

〔安藤会長〕

その辺りの、その減少した、そういう原因は何でしょうかという御質問です。

〔氏課長〕

そうですね、当初は、やっぱり、その既発生区域が少なかったんで、ほとんどの出るところ、出るところは、初めての発生区域でしたので、きちんと県のほうでも、一次検査をやって、国のほうに出して、確定診断を受けて、こういう数字として上げてました。これが、どんどん、どんどん増えていって、既発生になれば、もうそのまま埋却とか、焼却とかっていう処分するようになってからは、もう検査をしなくなってますので、そういった既発生区域が広がっていくことによって、数が減ってくるっていうのもあるんですね。ただ、今おっしゃられているように、それが一緒になってるグラフなので、その辺のところは、はっきり分かりませんので、これに関しては、やっぱり直して、また来年度、提示させていただこうと思います。

〔安藤会長〕

はい。病気が広まりがなくなつて、病気が少なくなつてるっていうことでもないんです。実際、その既に発生した地域の検査をしなかっただけで、だから、その辺りのことが分かるように、一番最初の質問があつたように、もうちょっと欄を増やして、全体の様子分かるような工夫をお願いしたいということが、来年度に向けての要望ということですよ。よろしいでしょうか。

[氏課長]

分かりました。

[安藤会長]

それでは、資料1に掲げられた、このコイヘルペスの指示については、原案のとおりでよろしいでしょうか。

[各委員]

はい。

[安藤会長]

ありがとうございました。

議事2 第五種共同漁業権魚種の増殖目標量について（協議事項）

【原案に同意する旨決議された。】

橋本書記が資料2に沿って説明した。

[安藤会長]

はい。ありがとうございました。今回のその資料のホームページ公開については、一番最後のペーパーは出ないんですよね。A3横長の分は出ないんですよね。

[橋本書記]

出ないです。

[安藤会長]

あくまでも、1ページ目が主になるわけですね。

[橋本書記]

そうですね。

[安藤会長]

じゃあ、説明をいただきましたが、特に、赤い四角でくくった、ちょっと若干変更のある部分
が示されておりますけれども、その辺りも含めて、何か御質問や御意見等があれば、お伺いしたい
と思います。

〔絹見委員〕

毎年、その産卵床整備してあるんだけど、これは、確認はされておられるんですか。ただ報告のみで、確認はされてない。

〔橋本書記〕

確認まではしてないですね。

〔絹見委員〕

してないですね。

〔橋本書記〕

はい。

〔絹見委員〕

ワカサギなんだけど、実績は、1匹でも2匹でもおるんですか。湖山池にしても、東郷池にしても。私は、全然見ないんだけど。おるのはどうなんでしょう。確認はされてないですか。

〔本田係長〕

おっしゃられるように、ワカサギについては、産卵床造成を、東郷湖さんのほうについては、長年やっていたところではあるんですが、10年ぐらい前までは、多少ちょっと、もう十数尾とか、その程度は見てたんですけども、前回の夏の委員会のほうでも話をさせていただいたように、大分環境のほうは、夏場に暑くなっているってということで、ワカサギの生息環境に適さなくなっているという状況は確認されておりまして、東郷池、ちょっと現状、何尾っていうのはあれですけど、もうほとんど見えてないですし、湖山池についても、定期的に調査しておりますが、今現状、見えてない状況です。

本来であれば、漁業資源として有効なものが、共同漁業権の対象魚種として設定される場所ではあるんですけども、やっぱりワカサギが、もし、まだ増える可能性があるのであれば、漁業資源として活用したいという強い思いが、東郷湖漁協さんのほうも、湖山池漁協さんのほうもございまして、このたびの漁業権の更新に当たっては、引き続き、これまでの取組を継続していくか、強化する、集中的に効果のある方法に切り替えていきたいと思いますということで、漁業権にも入れて、引き続き、増殖のほうも行っていただくということではお願いはさせていただきましたが、正直、環境面から、今現在、東郷池についても、湖山池についても、資源状況は、かなり少ないというふうには見ております。

〔安藤会長〕

栽培漁業センターさんのほうで、それぞれの東郷池や湖山池の定置網をしとておられますよね、池口付近に。それで、その漁獲一覧を、年報にずっと出しておられますよね。

〔田中主任研究員〕

ええ。

〔安藤会長〕

その中を見させていただくと、やっぱりワカサギ、やっぱり少ないです。シラウオは、多分あったと思うんですけども。

〔田中主任研究員〕

シラウオはありますね。

〔安藤会長〕

あるんですけども、ワカサギのその入網量っていうか、漁獲量とか、その辺の変化はどうなんでしょうか。

〔田中主任研究員〕

ワカサギ、ちょっと何年前から確認されてないっていうのは、正確ではないんですけども、ほぼ、ここ数年は、ワカサギは獲れてないですね。

〔安藤会長〕

うん、ほぼゼロですね。

〔田中主任研究員〕

少なくとも、調査では獲れてないという状況です。

〔安藤会長〕

もうここだけの話、ほとんどないですね。あわせて、トゲウオも、10年に1匹か2匹っちゃんがあったぐらいで。ワカサギもほとんどないっていうのが状況です。ただ、今回のその増殖指針量に合わせて、目標量は設定させていただいて、努力はすると。今後、やっぱり増えるものなら増やしたい、それから、産卵床の整備して、どんな粒度の砂礫がいいのか、どんな流速がいいのかっていう、先行事例も調べていただいて、御指導いただいて、それぞれの漁協さんで、産卵床整備をするっていう方向で、6年度いきたいということなので、そちらの方面で数値を上げているというのが現状です。それに期待したいと思います。現状は、ほぼいない、獲れない。よろしいでしょうか。

〔絹見委員〕

はい。

〔安藤会長〕

はい。ほかにはいかがでしょうか。

〔下田委員〕

そのワカサギで、卵を購入できなかったためって書いてあるんですけど、これは、その卵がないからってということでしょうか。

〔本田係長〕

ちょうど、後で少し参考として、お話ししようと思っていたんですけども、昔は、湖山池でも、湖山池で獲れた親魚から、組合員さんたちが、皆さんで人工採卵をしまして、人工的に発眼卵を作って、それを放流するっていうようなことをされてまして、そのようなときっていうのは、大体、冬場、寒い時期、1月、2月ぐらいが、この山陰での産卵期だったっていうふうに聞いています。ですけれども、湖山池で、だんだん親魚自体も、だんだん少なくなってきた、最近、北海道の網走ですとか、それから、北のほうの諏訪湖、そういったようなところから卵のほうを仕入れて、放流をされていたんですけども、今は、そちらのほうも、大分、ワカサギのその採卵が、そんなに順調にいつてなくて、自分のところの池に放流するのも、なかなか放流が難しいっていうことで、実際に、やっぱり手に入らない状態にあるっていうふうには聞いてます。

それと、もう一つ問題がありまして、そういった北海道や諏訪湖のほうから取ってくる卵の時期っていうのは、3月、4月ぐらいっていうことで、こちらの山陰にいるワカサギと、ちょっと時期がずれるそうなんです。そうすると、1月、2月に放流した卵っていうのは、山陰でやっぱりうまく生き残っていくんでしょけど、3月、4月の分っていうのは、やっぱりそこら辺から、もう、これはちょっと湖山池漁協の組合長さんの言い方なんですけれども、魚たちが元気になってくるので、やっぱりどうしても食べられる可能性が大きいんじゃないかっていうようなことも言っておられました。それでも、湖山池の環境さえよければ、1回、栽培漁業センターさんのほうで、遺伝子分析をされてます。そうすると、池内のワカサギの多くが、網走産の遺伝子を持ってたっていうようなこともあるので、きちんと放流したものが育ったような状況はあったようですけれども、夏場30度を超えるような水温にあるっていうようなところから、やっぱり、なかなか育っていないっていうような状況があるのかなあというふうに思います。

今、湖山池さんのほうが、産卵床造成を行うけれども、場所及び方法については検討中っていうのは、やはり今、絹見委員と同じようなお気持ちだとは思いますが、やっても効果が出るか、見込みがないじゃないっていう思いがあらわれて、できるだけ、ちゃんとやった効果が出る方法、でも、親魚もいないのに、そこに、どういう親が来るのかっていうところを、疑問視はされているんですけども、ちょっと、かつてやっておられた状況ですね、これ、ぜひ、また委員会のほうでも見ていただきたいというふうにおっしゃってられたんですけども、冬場に組合員さんが集まられて、造成をしているような状況とかあるんですけども、できれば、やっぱり産卵床を造った後には、こういったような、地元の、湖山池由来の親魚で増殖をするって

うことが、最終的にはできたらいいっていうふうにはおっしゃってられたんですが、正直、ちょっと環境的には、やはり難しい状況が続いているかなというふうには思います。

〔下田委員〕

はい、ありがとうございます。

〔安藤会長〕

はい、ありがとうございました。山崎委員さん、では。

〔山崎委員〕

同じです。

〔安藤会長〕

同じですか。

〔山崎委員〕

はい。

〔安藤会長〕

やっぱり、夏場の水温の上昇と、それから、貧酸素状態がやっぱり湖底内に、ある程度、湖山池、出てきますので、塩分躍層が生じたために。そうすると、餌となる餌料生物、特に、環形動物類だとか、イトミミズの仲間なんかもやっぱり生息が困難になってきますので、そのワカサギの餌となるような生物の生息量も、やっぱり極端に少なくなる。やっぱり、そうすると、発眼卵で、ふ化した稚魚を放流しても、生き残る可能性が、だんだん、だんだん、今のところは狭まっている状況。やっぱり水温の上昇っていうのは大変だろうと思います、夏場は特にですね。

だから、でも、そういうところを見ながらでも、やっぱり産卵床造成して、何とか増やしたいっていう、そこにちょっと期待を寄せていますけれども、これが実を結ばばいいなっていうふうには思っています。

ほかに、何か御質問ありますか。

〔絹見委員〕

ウナギですけどね、栽培漁業センターのほうは、ウナギの養殖を考えるような話はないですかね。頼みますわい。ちょっと余談ですけど。

〔寺崎委員〕

難しいなあ。

〔安藤会長〕

どうでしょうか。ウナギは、結局、稚魚を採集して、養殖になるんですけども。近大でも、ちょっと今、難しいですけど。まあ、一応は、採卵、ふ化までは行ってるんですか。

〔絹見委員〕

今、できてますよね。そこんところに行ってちょっと研究してっちゅう話はないかね。

〔田中主任研究員〕

まだ、たしか、1尾ですかね、数万円とか数十万円っていうレベルの実験の話なので、やはり、すぐすぐ養殖っていうのは難しいと思います。基本的には、種苗がないことにはなあという現状ですね。

〔絹見委員〕

でも、いずれは考えないけんよね。

〔田中主任研究員〕

多分、国のほうもそういう流れだとは思いますが。完全養殖になればっていう。

〔安藤会長〕

県内では、ウナギの稚魚を採捕するような人はいるんですか。

〔絹見委員〕

県内にはいないです。

〔安藤会長〕

もうみんな県外から購入ですかね。

〔田中主任研究員〕

そうですね。県内では、たしか許可を持ってる人がいないです。

〔本田係長〕

基本的には、県内がないですし、今は、もうシラスウナギの採捕については、全国的に、非常に厳しい規制がどんどんかけられておりまして、まずは、採捕している既存のところは、許可制等に移行するなどをしながら行っているところです。同じく、養殖場についても、もう今、無尽蔵に増やさないっていうことで、全体的な、全国的な調整の中で、養殖場についても稚魚の割り振りがされているような状況です。

[安藤会長]

絹見委員さん、そういう状況です。

[絹見委員]

はい。

[安藤会長]

年々、ウナギも、口に入りづらくなってきてるんで、ちょっと寂しいんですけど、近頃は、ウナギもどきみみたいなものも出てきてるんで、何だか、ごまかしてるんですけども、ウナギ食べたいですよ。

はい、ほかにないでしょうか。

[各委員]

なし。

[安藤会長]

じゃあ、一応、増殖の目標量についての分については、1ページ目に掲げている、各漁協さんのほうの目標量で、それで公表するというので、公示ペーパーとしては打っていくようにしたいと思います。

議事3 鳥取県水産振興局における令和6年度の予算について（報告事項）

本田係長が資料3に沿って説明した。

[安藤会長]

はい。ありがとうございました。何か、これについての、ちょっと聞いてみたいというようなところは。

もうこれは、予算としてはもう決まってるわけですよ。もう内示は全部出ているんですよ。

[本田係長]

今、議会中ですので、来週、議会の承認が取れましたら、この予算で計上されて、各漁協さんであるとか、試験研究機関での活動の方につなげていきたいと思っています。

[安藤会長]

はい、分かりました。

じゃあ、山崎委員さん、お願いします。

〔山崎委員〕

ちょっと教えていただきたいんですけども、2ページの3の事業目標・取組状況・改善点のところ、カワウ対策のことが載っていますが、環境省の主導で、中海、宍道湖の辺りとかで、それこそシャープシューティングやったりとか、偽卵とか、ドライアイス入れたりとかってような対策していらっしゃいますけど、そういうところを、県でいったら自然共生課が野鳥の会なんか調査を委託されてたりとかってようなことがありますけども、そういうところとの具体的な連携は、どういう感じになってるか教えていただけたら。

〔安藤会長〕

具体的なカワウ対策の中身も含めて、関係機関との協力状況なんかはいかがでしょうか。

〔氏課長〕

はい。若干、その水産振興課マターの業務ってということもありまして、最近の状況は、ちょっとよく分からないところがあるんですけども、実際、そのカワウの調査については、その自然共生課のほうを持ってられる分と、それから、うちのほうでいうと、表の一番上のところの魚を育む内水面漁業活動支援事業ということで、3河川のカワウ対策等、そういったところもやっております。

実際、自然共生課がやられてる分、シャープシューティングの分については、胃内容とかいって、胃袋をですね、固定して持ち帰って、その中身が何であったかっていうようなところは、栽培漁業センターのほうで調査しているのではないかなと思います。

〔田中主任研究員〕

カワウ対策なんですけど、まず最初に話題にあった中海の部分なんですけど、あれは、島根県の島に棲んでいますので、カワウの委員会を検討会という形で開きまして、島根県と鳥取県の県職員と、あと、ラムサール条約湿地ですので、環境省の担当の方にも出ていただいて、今はドライアイス、このちょうど月末になりますけど、ドライアスを導入しまして、繁殖を抑制させて、主に、県内の河川、日野川ですけど、日野川に飛来する親のカワウを少なくしようと対策しているところです。

ほかに、水産振興課のほうでやってる分につきましては、漁協さんに御協力いただいて、カワウの飛来数ですね、河川への飛来数を、春1回、夏1回と、あと秋2回、年4回飛来する調査をしているところです。実際、川にどのくらい飛来してくるかっていうのを、それで把握してる場所ですね。

あと、産卵場のほうに、アユが集まる時期には、そのアユが集まる場所にテグスを張って、カワウが飛んでこないようなところで対策してるというような格好になります。

先ほど、氏のほうからありましたけども、センターのほうでは、猟師の方に、カワウを捕ってもらって、その一部を、胃も取ってもらって、カワウが何を食べてるかっていうのを調査してる場所です。やってる対策としては、そういったところになります。

〔山崎委員〕

自然共生課とのその調査データのやり取りとか、共有みたいなことはされていない。

〔田中主任研究員〕

それは、さっき、ちらっと申しました対策の検討会の中で、合同でやっていますので、そのときにすり合わせています。

〔山崎委員〕

その中で。はい、分かりました。

〔安藤会長〕

はい。ありがとうございました。ほかに何か。

私のほうから1つ。小わざ魚道改修事業の魚道改修の優先順位っていうのは、どうやって決めるんですか。

〔氏課長〕

平成29年に、鳥取県水辺の環境保全協議会っていうのを立ち上げて、その際に、小わざ魚道ということで整備していこうという話がありまして、その段階で、県のほうとかが調査して、漁協さんにも伺いながら、優先順位を決めていこうということで、3河川の、それぞれ下流からずっと上って行って、徐々に、ああ、この堰は上がらないだろう、なら、そこはちょっと整備していこうというような形で、たしか決められたと思います。その中で、工事ができるような環境の河川を、毎年、何河川か選んでやってきております。例えば、千代川の永野堰ですとか、あるいは、日野川の蚊屋堰、そういったところは、もう既に工事が終わってますし、今回、郡山大口堰ですとか、あるいは、大原堰、そういったところを、今後、令和6年度にかけて工事を行う予定としています。

基本的には、その水辺の環境保全協議会というところで、漁協さんにも入っていただいて、優先順位をつけてやってるというところです。

〔安藤会長〕

その水辺の環境保全協議会っていうのは、所管課は、どちらになるんですか。

〔氏課長〕

これは水産振興課のほうになります。

〔安藤会長〕

はい、ありがとうございます。

ほかに何かありますでしょうか。よろしいでしょうか。

[各委員]

はい。

[安藤会長]

じゃあ、今、議会中で、多分通るとは思いますけれども、これで事業を進めていただければと思います。

議事4 その他

[安藤会長]

その他、何かありますでしょうか。

[三谷委員]

3月1日、解禁日で、足を運ばせてもらったんですけど、去年の大雨であちこちの川の地形も大きく変わっていて、放流する場所も選ぶのも大変だったと思います。漁協さん、その他の関係者の方、まずは大変御苦労さまでした、お疲れさまでしたということと、今回は、まだ私自身、4か所しか、ちょっと山のほうには上がっていないんですけど、思ったことがあって、ちょっとお話しさせていただきたいと思っています。

前にも、少しはお話しさせていただいたこともありますけど、シーズン中の2回の放流は、いいと思いますけど、鳥取県の千代川という大きな川が、今のそういう放流の仕方では、ちょっともったいないかなあとおぼえて、昔は、多分、他河川と同じように、解禁日前に普通に放流できていたのに、今では、解禁日当日の放流となっています。

それを見ていて、放流の場所にも、ちょっと放流の仕方、今回はちょっと仕方ないんですけど、ちょっとあまりにも目についた放流の仕方をされていた場所もありまして、ここに放流したとるとるみたいな、特権意識だけの放流になっているように思えたところもありまして、正直、普通に考えて、放流される魚は数日内で釣られて、残る魚は、それっきり、ほぼいないのが現状で、分かり切っていることだと思っています。前もって、各川に放流していたら、魚もそれなりにあちこちに散らばって、シーズン中に釣りを楽しむことができるのかなと思いました。昔、電気ショックとか、放流したら、誰か入って、釣りをして、魚がいなくなるという話もありましたけど、そんなこと言っていたら、他県の川も同じだと思うんです。他県の川の放流の仕方も参考にして、もっと川を、魚を残す方法なり、魚のいる川を目指してもらいたいなとちょっとおぼえて、こういう会で話をされているのを受けて、釣り人としては思ったんですけど、今のまんま、根本を変えないと、せっかくの鳥取県の千代川という大きな川が、ちょっともったいないなと。県外者からの釣り人からの意見もあって、残念な県になってしまうのかなと、ちょっとお話しさせていただきました。すみません。

〔寺崎委員〕

千代川のほうは、まず、稚魚の放流については、以前は4月にやっておりました。それで、やっぱり獲られたりするわけで、その辺りを10月に禁漁になってから、稚魚って、まあ、かなり大きいもんですけれども、放流するということにはしておりますので、解禁までに釣れるサイズになるか、ならんかということは別にして、そういう方法で、魚のほうは守っております。

成魚放流については、3月と4月に2回に分けて放流する。これは、あくまでも、遊漁者が楽しんでもらうためというふうに、うちのほうは割り切っております。少しぐらい残るでしょうけれども、まあ、釣り上げてもらったらいんじゃないかなというふうで、残った分は残った分で、それなりにするというので、産卵場整備なんかも始めとりますし、その辺りで残ったものについては、そういうところで産卵をするんじゃないかなというふうには思っております。

また、放流方法についても、いろいろ御意見がございましたけれども、さっき言っておられたように、放流したら、もう、すぐ、解禁前の放流でも、密漁が多かったりとか、それから、釣り人が、本当で放流しよるんかいやというようなことも、意見もあったりしてですね、やっぱり、見とる前で、ある程度理解していただきながら放流するということにはしております、場所的には、なるべく散らしてということで、各地区にはお願いしておりますけども、もし、そういうところでないところがあれば、御連絡いただければ、その地区に指導はしたいというふうに思っておりますけども、放流する量が、成魚の量もある程度は確保しとるんですけども、制限がございますので、全ての釣り人に満足いただけるというわけにはいかんですけども、かなり早朝から待っておられる方もおられますんで、ホームページで、釣り時間、去年の場合はしなかったんですけども、午前・午後で放流時間等は周知するようにしておりますので、その辺りも御理解いただきながら、釣っていただきたいなあというふうに思っております。

〔安藤会長〕

組合さんとしても、利用される方々の御意見や要望は聴きながら、いろいろ方策は立てておられると思いますので、今後も、またそういう御意見は頂いて、組合さんのほうで検討していただくということでお願いをしたいというふうに、ここでは収めたいと思います。

よろしいでしょうか。

〔三谷委員〕

はい。

〔安藤会長〕

はい。ほかにございませんでしょうか。

〔各委員〕

なし。

その他

[安藤会長]

その他については、いかがですか。

[寺崎委員]

栽培漁業センターさんの方に。

今年のアユの状況はどんな感じでしょう。湾内に少しは迷うっていう話は聞くんですけど、もし分かるとれば、教えていただきたいなというふうに思います。

[田中主任研究員]

正確なところではないんですけども、昨年、産卵の状況は千代川さんは非常によかったんですけど、11月半ばに結構な雨が降りまして、それで水位がどうも1メートルぐらい上がったみたいなんですけど、その後、流下仔魚調査をやっていただいて、それを見ると、その後、急にぱたっと一旦ゼロになりまして、その後、12月に、もう少し、密度が濃くなるようなところがあったんですね。最近のアユの遡上というのは、大体11月の半ばと後半のほうがメインでしたので、ちょうどその時期の流下仔魚が激減してしまったっていうところもあって、海での生き残りもそこそこあるようなんですけども、ちょっとそのメインの部分がもう減ってしまったので、去年ほどの遡上はどうもなさそうだなと思っております。

[山崎委員]

去年はよかったですか。

[安藤会長]

よかったです。

[山崎委員]

3河川ともでしょうか。

[安藤会長]

3河川とも。数もサイズも、ちょっと近年、まれに見る釣果でしたね。

[山崎委員]

平成26年以前と比べたらどのぐらいですか。まだまだ？その不作になる前よりかは。

[安藤会長]

どうでしょう、漁協さん。

〔寺崎委員〕

私が子どもの頃よりかは、まだやっぱり少ないですわね。もう、それこそ堰っていう堰から飛ぶのが見えましたけどね。そういう状況ではないですけども、今までにないぐらい、近年にないぐらいは、すごい量だったです。

〔安藤会長〕

去年の河川水辺の国勢調査っていうの、魚介類の調査、私も同行しているんですけども、去年は、天神川さんのほうでしたかね、今までにかつてないほどの量を見させてもらいました。

アユは中流域まで。今年が日野川さんになるので、今年もちょっと期待しているんですけど、数、サイズともに大きかったです。

〔本田係長〕

一応、天神川さんのほうに、今年は、夏場に非常に、例の災害があつて、そのときも心配したんですけど、災害の水がはけた後に、きちんとかなりのアユが見えました、どこから湧いてきたのか分からないけどというお話はお聴きしたので、結構、あれだけの大雨があつたけど、去年の親魚はよかつたっていうのは、天神川さんのほうからもお伺いしたところです。

〔安藤会長〕

どこに避難するんでしょうね、あれだけの魚がね。

〔本田係長〕

ですよ。私も、普通に全然知らないものですから、あれだけ流れたら、もうどこまで流れていったのかなって、いなくなったと思ってるんですけどね。

〔寺崎委員〕

横のほうにおるから。岸の方の横のほうの草むらみたいなところに、ざっと入ってますね。

〔本田係長〕

そこにいるんですか。

〔寺崎委員〕

ええ。

〔本田係長〕

だから、出てくるんですね。水がきれいになったら、きちんと出てきたっていうふうにおっし

やってられたので。

〔寺崎委員〕

そうです。だから、濁るとときに、浅いところを網で打つと、もうたくさん獲れる。

〔本田係長〕

かえって。

〔寺崎委員〕

ええ。

〔安藤会長〕

だから、それで流されるんですよね、網打ちの人がね。

〔本田係長〕

でも、何かよく漁協の方もおっしゃられるように、河川整備をなるべくあまりせずに、自然の
がいいって言うのは、そこなんですな。

〔寺崎委員〕

そうです。木や、前は、石垣の間に入ったり。それから、木等があると、枝の間のほうに、流れ
のないところに入って、澄んでくると出てきて、すすつと、今度は、差すって言うか、遡上しだ
しますからね。水流が、大きかったりすると、多分かえってたくさん下流の分が上がってきたん
じゃないかなあというふうに、僕は思っておりますけども。

〔本田係長〕

天神川さんも、同じように、大分流された個体もあったけど、かなりの勢いで上流部まで上が
ってきて、その後、秋もよかったというふうにおっしゃってられたんです。

〔寺崎委員〕

うん、多分、そうだと思います。

〔安藤会長〕

そうですね。天神川さんの河川水辺の国勢調査は、8月と10月にありましたけども、両方
とも多かったですからね。やっぱり8月15日のあの大雨の後でも、結構、また帰ってきてまし
たからね。もう、本当にもう、あれ、あれ、あれって思うくらい、足の周りを大きなアユがね、も
うそれこそ尺アユクラスのがもう、ぼんぼん上がりよりました。

〔寺崎委員〕

1日に何キロも上るっていいますから、だから、かなり上がるんじゃないでしょうかね。

〔安藤会長〕

はい。そういう状況で、また今年も、そんな景色が見られたらなと思いますけれども。

その他何かありましたら、よろしく願います。

いいでしょうか。

〔各委員〕

はい。

〔安藤会長〕

じゃあ、ないようですので、司会を事務局のほうにお返しいたします。

〔氏事務局長〕

そうしますと、会長も挨拶で言っておられましたけど、スプリングということで、弾みのいい漁期になればと思います。これで締められるかどうか、ちょっと分かりませんが。

そうしますと、以上をもちまして、委員会のほうは終わりたいと思います。多分、これが今年度最後の委員会となりますので、また今度は、年度明けの5月頃を予定しておりますので、また近くなりましたら、日程調整させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、皆様、お疲れさまでした。